あ　と　が　き

関西大学学生センターが実施している「学生生活実態調査」は、昭和 30 年の第 1 回調査以来、半世紀を超える歴史があります。調査は、平成 15 年度まで毎年実施していましたが、平成 16 年度以降は隔年の実施となり、現在に至っています。この間に蓄積した調査結果のデータは膨大な量であり、本学としましても貴重な財産として保存しています。

この学生生活調査は、昭和 63 年以降 3 種類の異なった調査形式をローテーションで実施しており、平成 19 年度は、日本私立大学連盟の実施している「学生生活実態調査」との比較に主眼を置いた調査を実施しました。

今回の調査の結果、全国平均との差が顕著に表れた項目は、『本学を選んだ理由』で、「就職に有利だと思ったから」と答えた人が本学で 29.3%おり、全国平均を 11.5 ポイント上回りました。また、「自宅からの通学が可能だったから」と答えた人は 32.7%で、これも全国平均を 5.9 ポイント上回っています。

課外活動への参加率は、ここ数年全国平均を下回っていましたが、今回の調査でも依然 55.2%と全国平均を 8.4 ポイント下回る結果となりました。しかし、本学におけるこの項目の経年比較をみると平成 10 年度からは、約 10 ポイント上昇しており、徐々にではありますが本学の課外活動が活発になりつつあることがわかりました。

また、今回の調査では、本学独自の設問として、昼食のとり方や食堂の座席数について聞いてみました。学生達は、学内の食堂の価格や味については、それほどの不満はないものの、食堂の座席数については、「不足している」と感じている人が 7 割を超える結果となりました。

さらに、平成 18 年 8 月に設置された教務センターについての設問では、法学部、文学部といった第 1 学舎で講義が行われる学部で不便を感じていることが浮き彫りとなりました。

この学生生活実態調査によって、学生生活のさまざまな面が統計的に明らかになりましたが、本学としましては、この調査結果を貴重な資料とし、学生生活や教学面の改善のために有効に利用したいと考えています。

最後になりましたが、この調査を実施するにあたりご協力いただいた関係者の皆様をはじめ、アンケートに真摯に回答していただいた学生諸君に厚く御礼申し上げます。